

渡り鳥と人をつなぐ大阪南港野鳥園～人工干潟整備による環境保全～

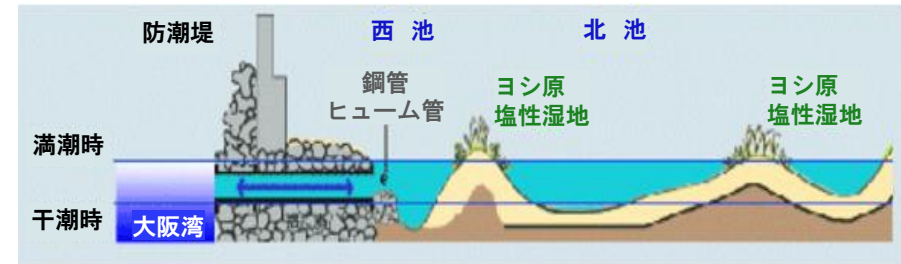


■プロジェクトの概要

- 大阪市では、昭和58年に開園した日本初の人工干潟である大阪南港野鳥園の造成に際して、常に干潟として最適な地盤高さが確保されるよう、北側・南側をそれぞれ高さを変えて造成を行うとともに、潮の満ち引きにより干潟が維持されるよう導水管を設置するなど工夫を実施しました。また、NPO法人・市民・大学等と協働して、干潟・湿地の環境調査や清掃、展望塔などの施設を有効活用した環境学習（野鳥などの観察指導、学習会等）などの事業を継続して実施しております。

■プロジェクトの特徴・PRポイント

- 12.8haの干潟部と6.5haの緑地部に分かれた園内では、多様な底生生物やヨシ類など豊かな生態系が生育しています。
- また、四季それぞれに多様な野鳥や小動物も観察でき、**市民の野鳥観察会や学校の環境教育の場**として利用されており、環境省の「**日本の重要湿地500**」に選定されています。
- 市民・校団等と連携した、**ボランティアによる漂着ごみの回収**、また地元の中高生や教員を対象にした**干潟の生き物観察会**も実施しており、**環境学習による啓発活動**、これらの活動を通じた干潟及びその周辺の生物生態系の見守りを行っています。



ボランティアの方々による漂着ごみ回収の様子



展望塔からの観察



【春】チュウシャクシギ



【夏】アカテガニ



【秋】カニを捕まえたハウロクシギ



【冬】絶滅危惧Ⅱ類のツクシガモ